

平和通買物公園の在り方についての考察～モノからコトへ

発表要旨

私たちの住む旭川市「平和通買物公園」の現状について調査し、中心市街地の商店街が、その役割を終えたわけではなく、役割が変化したと捉え、持続させるための考察を行いたい。

1. 背景と目的

2003年ごろから現在まで続く、大型商業集積の郊外出店により、多くの中心市街地の商店街が、その機能を失いつつある。大型核店舗の出店に頼らない「市民が持続できるまちづくり」のための研究を行う。

2. 方法

買物公園の店舗数および通行量を時系列で比較し、また、アンケート調査により得たデータから利用頻度と利用目的を年代別にスコア化した。調査は昨今の社会状況を考慮して、アンケート依頼チラシに掲載した2次元コードを読み込み、回答してもらう方法で実施した。買物公園商店街の17店舗および駅前大型商業施設にチラシ掲示の協力を依頼し実施した。本校生徒からも同様の方法でアンケート調査を行った。

3. 結果

買物公園の利用目的は、高齢層ほど商品購入を目的としており、若年層ほどサービス利用を目的にしている。(図1)また。昭和54年と現在を比較すると専門店と小売店が大きく減少しており、いくつかの店舗を見て回るために商店街の中を歩き回るといった行動がなくなっていることが伺える。

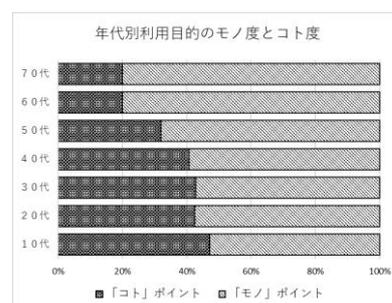


図1 年代別利用目的のモノ度とコト度

4. 結論

車を持たない高齢者を「買い物難民」にしないために、地域の商店街が持つ意味は大きい。また商店街は「ものを購入する」という場だけではなく、「なにかをしに行く」ことが目的である人が多いことがわかった。今後、買物公園を活性化させるためには、多種多様なサービスを充実させることで買い物をするという目的がなくても気軽に楽しめる場所として多くの人から利用されるのではないだろうか。ヨーロッパに多く見られる路上カフェなどの空間利用を進めることで、商店街の利用シーンを「モノ」から「コト」へ広げることが求められる。

5. 今後の課題

補助金や助成に頼らない仕組みづくり、道路占用許可基準

6. 参考文献

旭川市オープンデータライブラリ、旭川平和通買物公園通行量調査

7. IT・データサイエンスの活用

・アンケートデータのクロス集計 ・スコアによる利用目的の可視化